法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

〈図書紹介〉『自由への道(全六冊中の一〜三)』サルトル著 海老坂武、澤田直 訳 岩波書店 二〇〇九年

武田, 昭彦 / TAKEDA, Akihiko

```
(出版者 / Publisher)
法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政哲学 / 法政哲学

(巻 / Volume)
7

(開始ページ / Start Page)
75

(終了ページ / End Page)
75

(発行年 / Year)
2011-06

(URL)
https://doi.org/10.15002/00008012
```

『国由への質【図書紹介】

サルトル著 海老坂武、澤田直 訳 岩波書店 二〇〇九年『自由への道(全六冊中の一~三)』

武田 昭彦

大十年ぶりに、海老坂武・澤田直、両氏のご努力でサル大十年ぶりに、海老坂武・澤田直、両氏のご努力でサルトルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に読みやすくなった、喜ばしい限りである。『自トルが非常に表示を表示といる。

するようになり、ジャコメッティの友人だったサルトルをらないが、矢内原伊作先生のもとでジャコメッティを研究に残ってしまった。その後、めぐり合わせかどうかは分かからないサルトル」というのが、先入観としてわたしの内で、サルトルやカミュに興味を覚え読んだけれど、「よくわた感があった。私が上京した当時も、まだその迷訳が健在、戦後まもなく、サルトルはそれこそドサクサに翻訳され

だから翌年四月に刊行された本書の四冊目も含めて述べな 三〇日までの、「猶予」と題された第二次世界大戦の前夜の 題された第一部、三が第二部の一九三八年九月二三日から と、本書『自由への道』は、全六冊であり、今回紹介する り前で、戦前・戦後(一九四〇~五〇年代)のパリのあのモ 学書『存在と無』との関係においても重要な観点である。 とも重要なのは「まなざし小説」だということ、これは哲 ある。そこにはいくつかの特徴が凝集されているが、もっ て一言述べておこう。これは、わずか四十八時間の物語で ければならないが、紙数がないので、「分別ざかり」につい 激動の一週間の物語の一部(九月二三~二四日分)である。 のは、その内の三冊、すなわち一~二が「分別ざかり」と れ、みなが同じような問題を共有していたのである。 ンパルナスの狭い空間情況の中で、哲学者であれ芸術家であ 正確に理解したいと思うようになった。ジャコメッティの いるのではないかと考えたからだ。だが、そんなことは当た 「自由」が本書『自由への道』のテーマと何か関連をもって さて、図書紹介が思い出話になってしまった。 話を戻す

著 Jean-Paul Sartre, Les chemins de la liberté, Paris, Gallimard

反哲学の哲学小説とも言えるので、ぜひ読んでいただきた